

2009年 年頭ごあいさつ

鈴木敏文 セブン&アイ・ホールディングス会長兼 CEO（最高経営責任者）

米国の金融危機に端を発した世界的な経済危機が進行する中で、今年は何が起こるか分からない厳しい年となります。皆さんには、この「大変革の時代」にあって、つねに環境変化への対処を念頭において仕事に取り組んでいただきたいと思います。

消費市場の飽和と景気後退が重なり、消費心理はこれまで以上に冷え込んでいくものと考えられます。この中で、各社・各店舗は地域にしっかりと根をおろし「お客様の立場に立った」経営に集中するとともに、新しい商品の開発、新しい売場づくり等「新しいことへの挑戦」にいっそう力を注いでいただきたいと思います。それとともに、日々の仕事の中で、今年はとりわけ次の点に力を注いでいきます。

- ① **基本の徹底**…フレンドリーな接客、クレンジネス、味・鮮度の徹底、品揃えといった基本4原則のレベルを高め、基本教育の徹底に力を注いでいきます。また、食の安全への要望が高まっている中で、生産から販売にいたるまで全ての工程に責任を持って、絶対的な食の安全を追求していくことが不可欠です。
- ② **商品開発と生産性の向上**…お客様の潜在ニーズや要望に応える新しい魅力ある商品やサービスの開発とともに、作業改善によってムダをなくし、あらゆるコスト削減の努力を進めていきます。
- ③ **グループシナジーの追求**…各社が共通の目標に向かい、業態の壁を越えて取り組むことにより生まれた「セブンプレミアム」がお客様から大きな支持をいただき、流通グループが生み出した優れたブランドとして各方面から注目を集めています。力を合わせれば必ず成果が得られます。また、ミレニアムリテイリング、赤ちゃん本舗等とのグループシナジーを本格的に進め、いっそう効果を上げていきます。
- ④ **財務の健全性**…金融危機が叫ばれる中にあっても、セブン&アイグループは、従来よりバランスシートの健全性を基本に置いた経営に努めてきた結果、事業活動に専念できる財務体質をそなえています。今後とも、健全なバランスシートを前提に、夫々の事業活動で生み出した利益によって必要な投資を賄うことを原則とする、健全で持続的な成長を目指していきます。

【中核事業会社の方針】

- ① **セブン-イレブン**…年間 1,000 店舗の積極的な出店と、揚げ物等、店内で加工する食品を含めたファスト・フードの強化に取り組みます。また、中国での本格的なフランチャイズ店舗展開を始動します。
- ② **イトーヨーカドー**…構造改革による既存店活性化に注力し、立地、商圈ニーズの変化に合わせて、新型ディスカウント店舗や都市型ホームセンターへの転換を戦略的に推進すると共に不採算店の閉店等も着実に進めます。
- ③ **ミレニアムリテイリンググループ**…本格的なグループ統合を実行し、商勢圏ごとにオペレーションの集約・強化を図っていきます。
- ④ **IT・サービス**…新たな挑戦として本年を「ネットサービス元年」ととらえ、ネット、メディアそして店舗を融合した新しいサービスを提供します。

厳しい環境下にあります。未曾有の大変革期を乗り切るには、「明るさ」が不可欠です。社員一人ひとりが創意工夫をもって新しいことに挑戦し、顧客満足度ナンバーワンのグループにしていきたいと考えています。

(2009年1月4日 年頭朝礼あいさつ要旨)